

故中村慎一郎君 大谷原追悼行 2013年5月12日



小熊山林道より鹿島槍

中村慎一郎君が1968年5月1日に鹿島槍天狗尾根に逝って実に45年の月日が流れた。

当時の登行メンバーを中心に慰霊碑のある大谷原への追悼行が企画され、  
この間殆ど顔を合わせたことのないメンバーも含め8名が集まり、再会を果たした。

当日はあの日と同じ五月晴れとなった。



昨日は悪天だったが今日は快晴。  
朝8時にアダージオを2台の車で出発。  
後立山を見はるかすセブンイレブンで昼食を  
求め、いざ大町へ。





鹿島槍遠望  
雪が多い



鹿島部落へ



大谷原より布引、鹿島槍 10:20

大川沢出会 10:30



布引岳

一ノ沢ノ頭

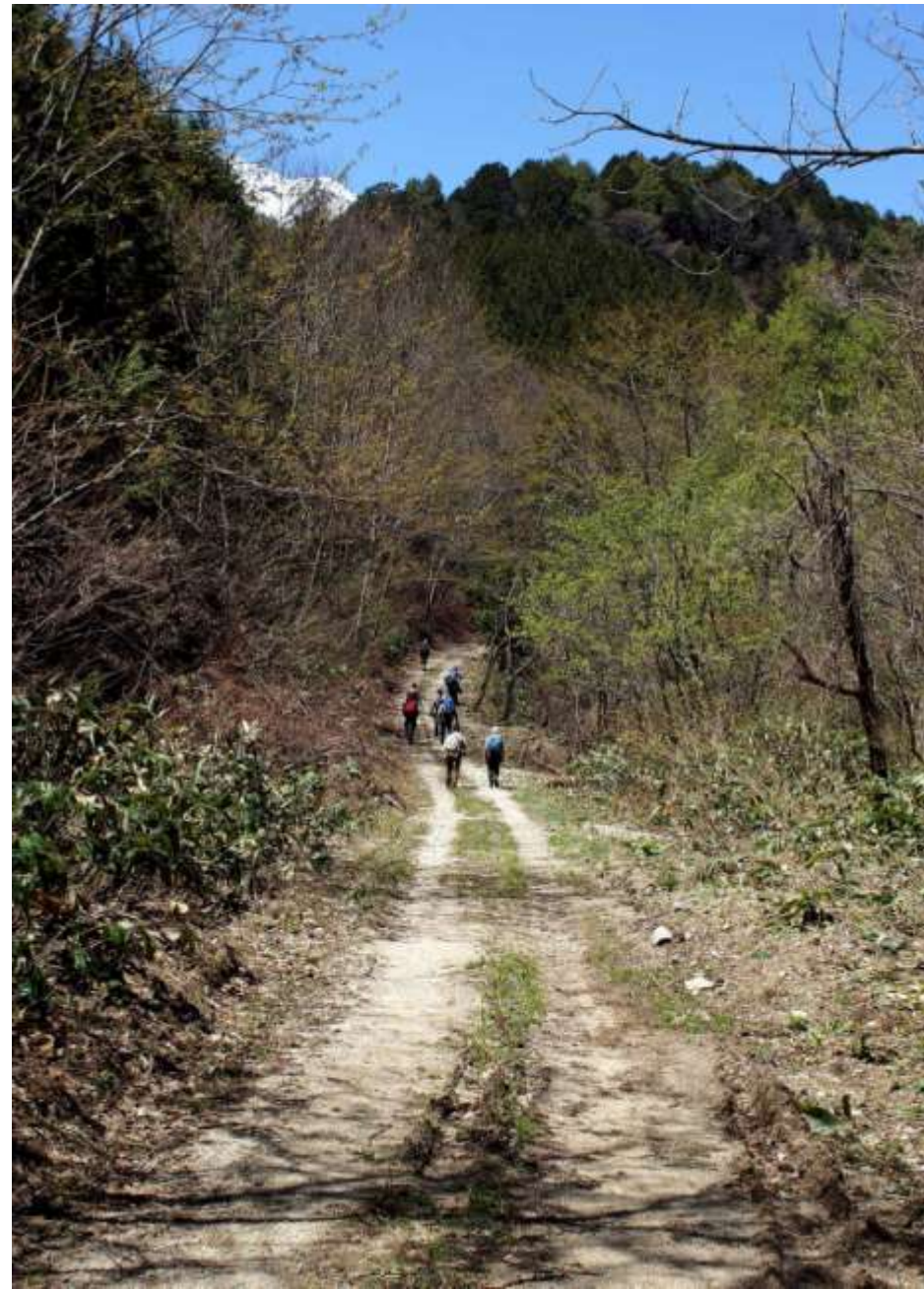
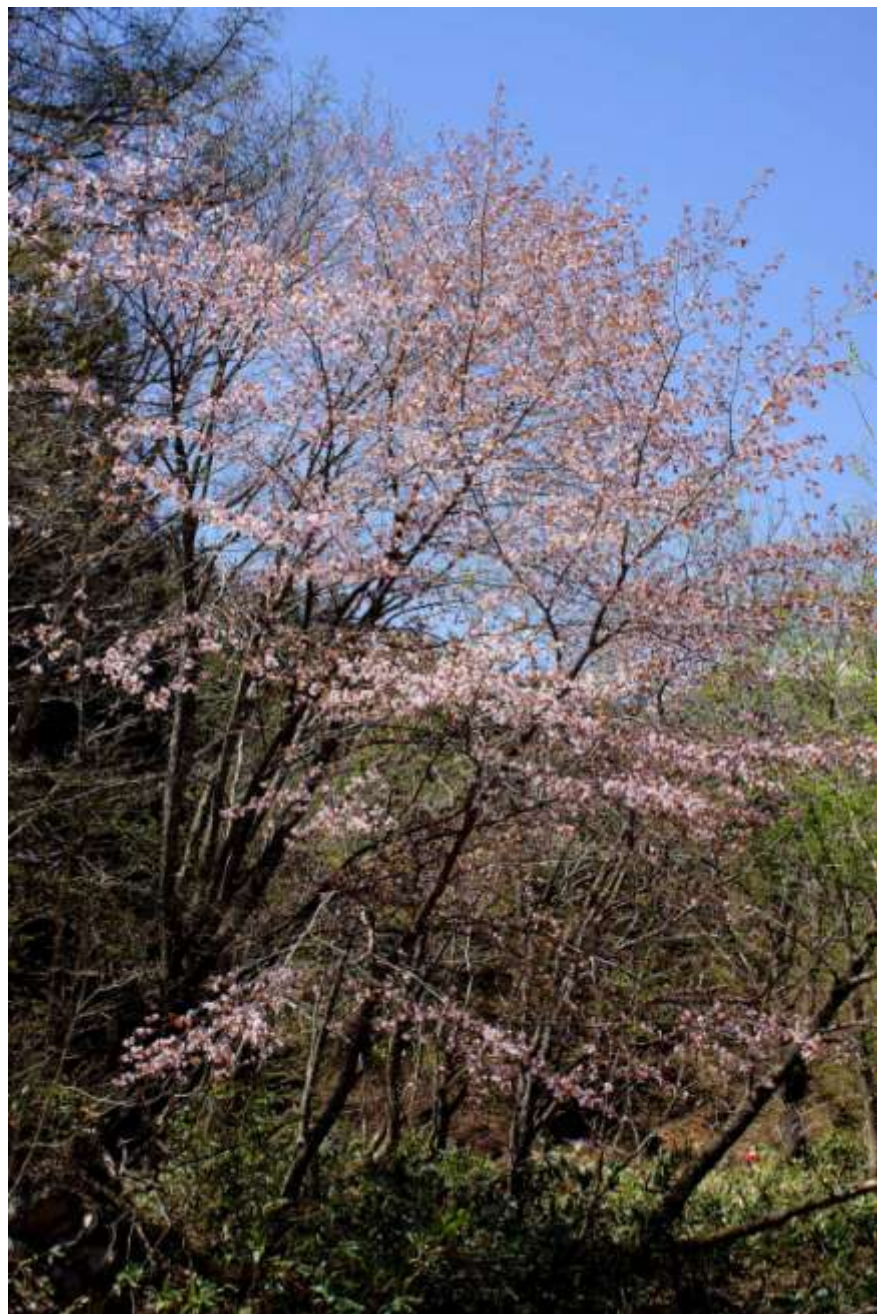
鹿島槍

天狗の鼻

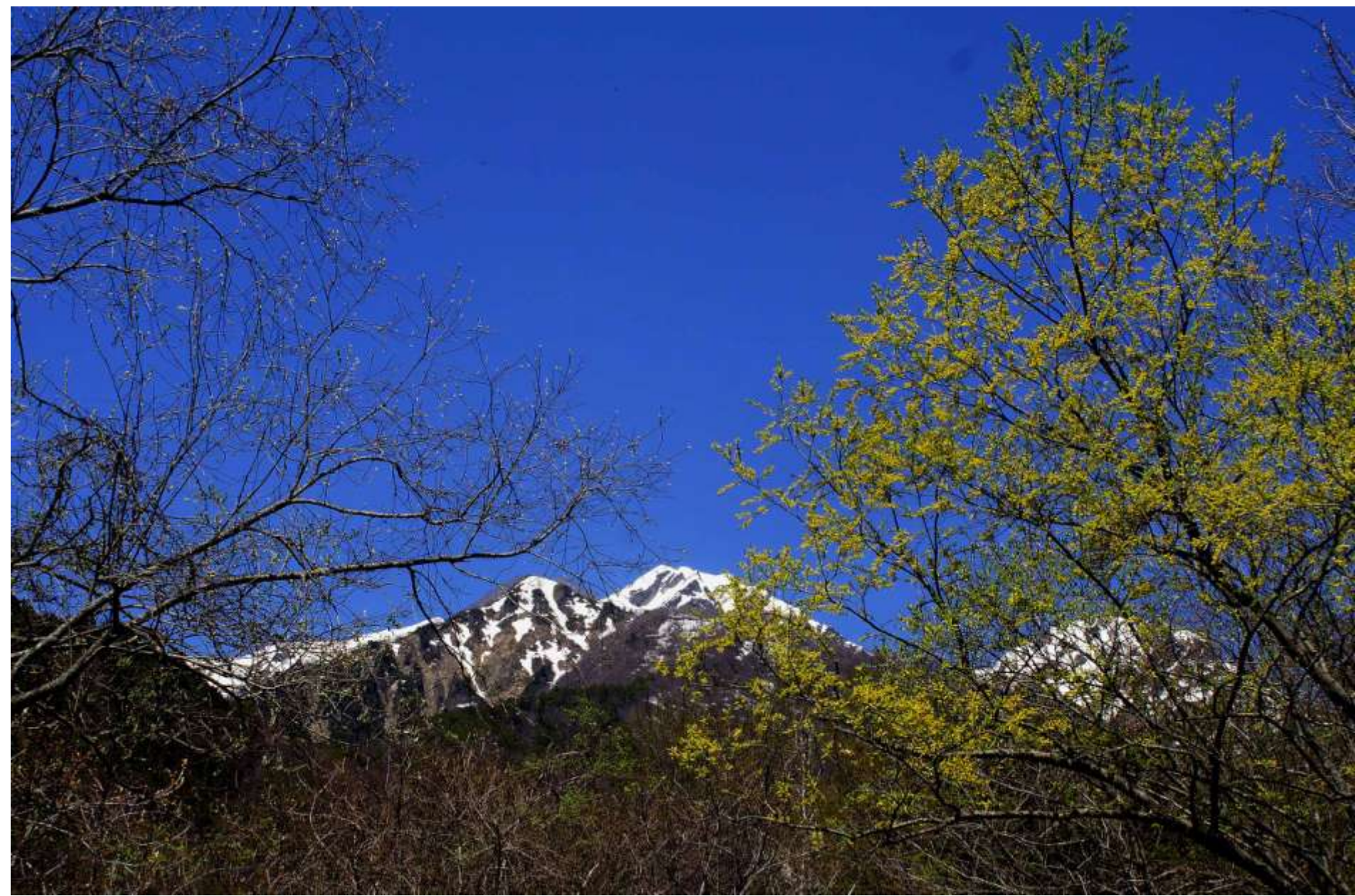


大川沢左岸に行く林道を昭電小屋へ向かおうとしたが、手前の橋が崩落している。水勢は強く渡渉できそうにない。  
ここだけでなく、そのあとの橋も崩落している可能性があり、この林道に行くのは断念、撤退する。  
10:30





大川沢右岸林道へ轉身、上流へ。山桜が盛りだ。 10:35



鹿島新緑。右手の新緑越しに天狗の鼻が大きく見える。 10:40

松尾

戸川

中村

俵

藤原

西牟田

宮武

金子



林道は次第に高度を上げ、沢との高度差は70mほどになる。斜面も急で全員は下れないため、安全を期してこの地点で追悼行事をし(10:56)、山讃譜を斉唱した。

1968年、俵リーダー時代の現役13名(内2名故人)の内7名+OB1名が集結した。人生が戻ってきたような感じがした。

45年の間、各人各様に生きてきたが、あの良く晴れた5月1日の記憶だけは同じだ。

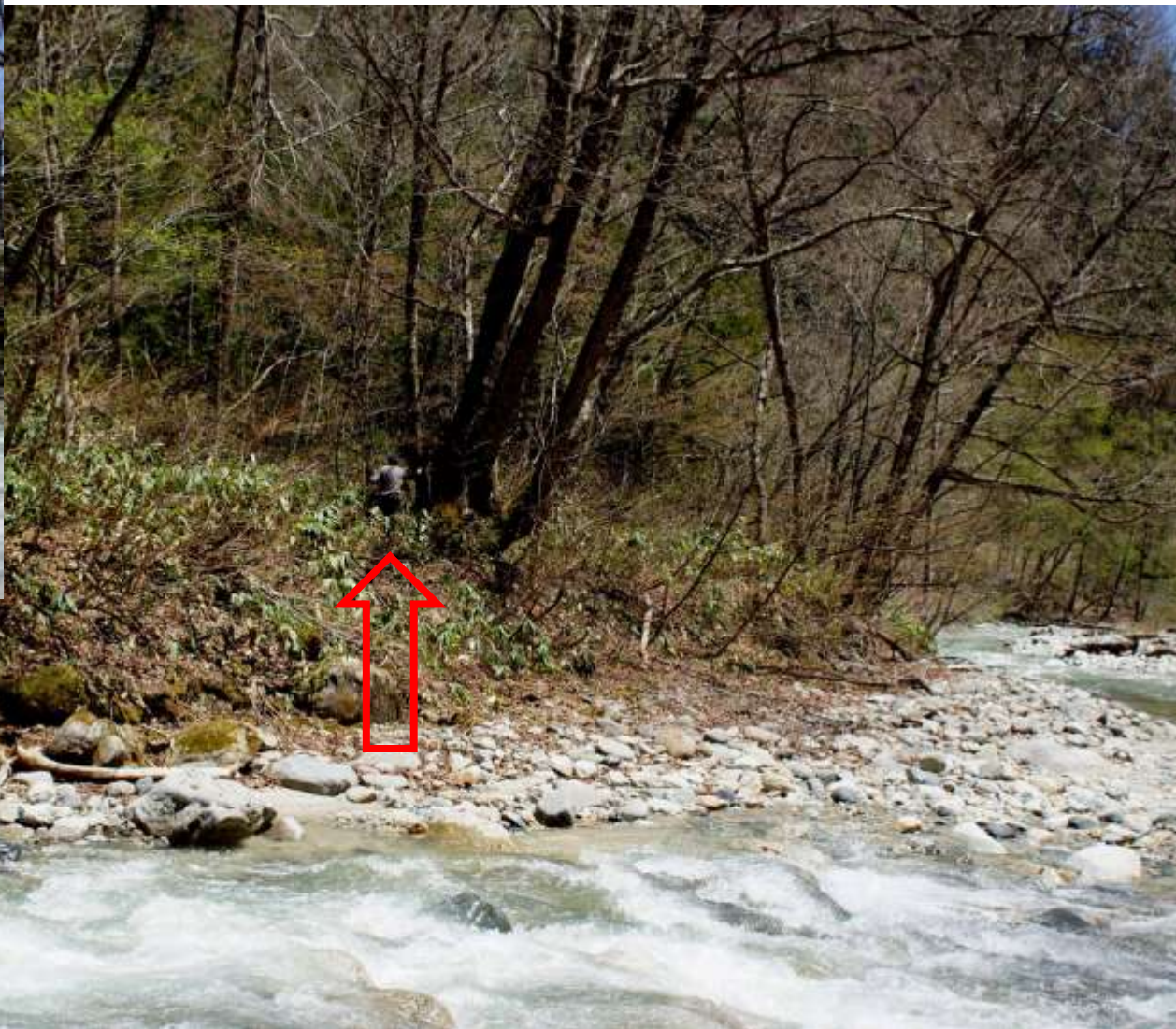


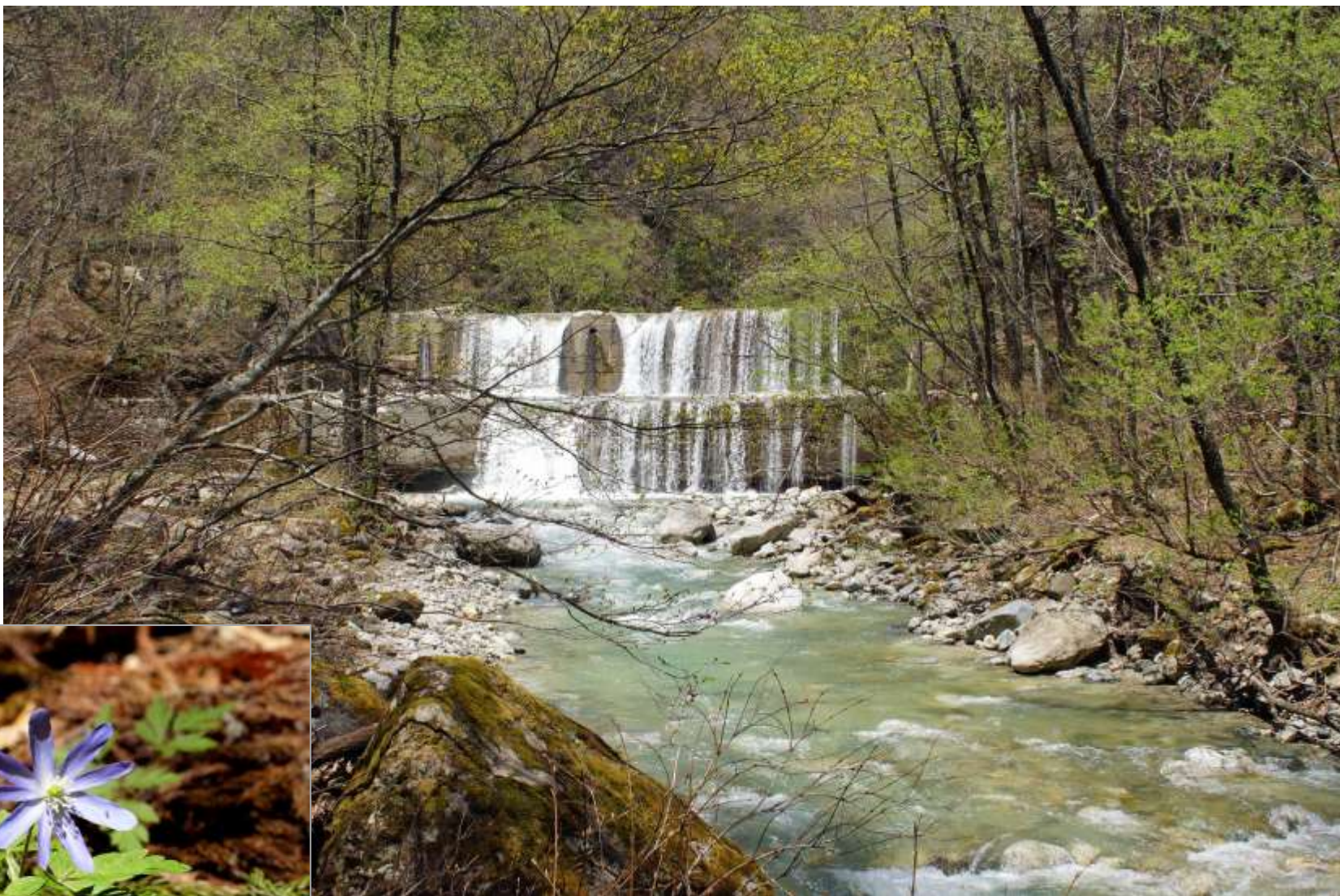


追悼行事のあと、下り斜面がやや緩くなった地点を選び林道から沢へ下降、対岸の慰霊碑への献花をトライ。  
藤原さんが冷たい急流の中をあちこちチェックし、10分ほどかかって対岸の屈曲部分へ渡渉成功。  
さすが藤原さん。残るメンバーはただ無事を祈るのみ。



藤原さんは慰霊碑を求めてはだしのまま林の中を搜索が見つからない。  
さらに上流へと向かい搜索を続ける。





上流には見知らぬ大きな堰堤が現れる。11:30  
山道は高巻いていたためかつては気付かなかったのかもしれない。  
藤原さんはその上流も探るが慰霊碑の場所は判然しない。  
おそらく下部の屈曲部分であろうと言うことで、  
水の少ない秋に改めて位置を探ることにした。  
雪解け直後の林の中にはキクザキイチゲが元気一杯の姿を見せていた。



大谷原へ戻り、鹿島槍見納め 12:55



下山にあたり、藤原さんの提案で  
鹿島の前山である小熊山に開かれた林  
道を辿ることにした。  
鹿島槍、爺ヶ岳の見事な景色が目の前  
に広がった。 13:10

木崎湖を見下ろす草原は正にサウンドオブミュージックの舞台。  
大糸線を走る電車がまるでおもちゃのように見える。  
信州観光をするならば、ここに登らない手は無い。  
数十年を経て再会できたおかげで、参加メンバーは  
1968年5月1日を起点としたこれまでの人生の厚みと言うものを  
実感した。これも中村君のおかげ。ありがとう。14:00  
林道を下り。木崎湖畔で長野組と東京組に分かれて解散。  
5年後(?)にまた会いましょう。

